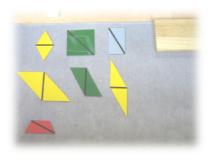
今、しゅんな お仕事

今年度このページを担当するスタッフからのメッセージ♪

モンテッソーリのお仕事のお手伝いをさせて頂きます。お仕事が大好き なお子様たちの力になれるよう、努めて参ります。

私はモンテッソーリ活動の中で、特に感覚を洗練する分野のお仕事が大好きです。「構成三角形」というお仕事があります。様々な平面図形を作るお仕事です。例えば「長方形の箱」では、いろんな種類の三角形を2枚合わせて四角形を作ります。正方形や長方形、平行四辺形などが出来上がりますが、三角形の板の上に書かれた黒い線どうしを合わせると形が出来上がるので、子どもだけでも活動ができます。こんなふうに図形に親しんでいる子ども達は将来楽しみながら数学の世界を広げ、深めていくのだろうなととても楽しみになります。

構成三角形 (感覚教育)



今年も子どもたちと、モンテッソーリお仕事をさせて頂きます。モンテ ソーリ活動を通して楽しい時間が作れるよう、努めてまいります。

私の好きなお仕事は、日常生活の「小布を洗う」です。このお仕事は、今では珍しい「洗濯板」を使って布を洗います。一枚の布が石鹸によってきれいになっていくだけ様子だけでなく、洗濯板で布をゴシゴシこする音や、洗濯桶の栓を抜いた時、下に落ちる水の音など、感覚を刺激するたくさんの要素があります。毎日何気なく洗濯機を使って、洗濯をしている私ですが、この手間のかかる一連の作業を終え、布のしわをのばし干す時、何とも言えない充実感があります。このような充実感を、子どもたちとたくさん共感できる一年にしていきたいです。

小布を洗う (日常生活)



子どもたちのより良い発達を助けてくれる素晴らしいモンテッソーリのお仕事を、共にさせて頂きます。本年度も楽しみながら進めてまいります。よろしくお願い致します。

私の好きなお仕事は、言語教育の中の「鉄製はめ込み」です。子どもたちが、筆記具(色えんぴつ)を用いて書く初めての活動になります。鉄製のつまみのついた 10種の幾何図形とその枠を使って、様々な模様を描く活動なので、まだ筆圧弱い小さなお子さんでも楽しく作図することができます。弱々しかった線も、楽しくて何度も繰り返していくうちに段々と力強くなり、「書くための手」が徐々に出来上がっていきます。これが次に字を書くための準備となるのです。また、子どもたちの中にある芸術的な感覚も刺激するとても魅力的なお仕事です。

鉄製はめこみ (言語教育)



桃色の塔

(感覚教育)



この教具は、桃色に統一された 10 個の立方体がタワーのように積んであるものです。その特徴的な「色」と整然と積み上げられた様子は、感覚が敏感な子ども達にとって、とても魅力的に感じる様です。今、特にプライマリーに降りてき

たばかりの赤バッチさんは、夢中になって積んでいます。小さな手には、一番大きな「一辺が 10 cm」の立方体を運ぶのは一苦労ですが、慎重にじゅうたんへ運び終えた時は本当に嬉しそうです。また、一番小さな「一辺が1 cm」の立方体をタワーの一番上にそーっと積み上げた時の達成感に満ちた表情は見ているこちらも近づき難い程です。このようにワクワクしながら三次元の世界を身近に体感できる素敵な教具です。 (K.S)



小さい篭1

(言語教育)



五十音が読めるようになった子どもたちは、身の回りにあるひらがなを次々と 声に出して読み始めます。そんな時期の子どもたちが夢中になって取り組んでい るのが「小さい篭1」です。教師がカードに、環境の中にある物で持ち運びがで きるもの(例えば…えほん、のり、えんぴつ、など)の名前を1つ書きじゅうた

んに置きます。子どもはそれを読み、環境の中から探して持ってきてカードと並べていきます。まだまだ拾い読みの段階なので「え」「ほ」「ん」…「えほんだ!」と気づくまでに時間がかかりますが、分かった瞬間には満面の笑みになり意気揚々と探しに出かけています。繰り返し行なううちに音の組み合わせで言葉ができていることに気づくと子どもたちの言葉の世界はますます広がり魅力的なものになっていきます。 (M.I)



セガン板Ⅱ

(数教育)



1,10,100,1000 など大きな数の違いを経験してきた青さんには、次に数が 1 つずつ増える「連続数」(1,2,3…11,12…)を紹介します。子ども達は普段上手に「いち、にー、さん…」と口で数えたりします。でも 17 の次は?とか、24 から戻って、などと言うと意外に難しく、また「11 と書いて」と言うと 10

1(じゅう・いち)と書いたりします。このセガン板は、I(11~19の紹介)もありますが、今青さんがしているのはセガン板II(11~99)です。数字の書かれた板とビーズを使い、1の位の数字カードを1つずつ差し込みながら数の連続を確認していきます。例えば59であれば9の下に0が隠れているので、子ども達にも59という数が分かりやすく理解されるのです。

(Y.K)



今、(Lph)

お仕事

はめこみ円柱

(感覚教育)



モンテッソーリ教育の代表的な教具の1つに、「はめ込み円柱」があります。つまみのついた10個の円柱と、それらがぴったりと収まる10個の穴があいた木製ブロックからなる教具で、4種類あります。高さが同じで直径が変化するもの、直径が同じで高さが変化するもの、残りの2つは高さも直径も変化します。この

「はめ込み円柱」の活動はとてもシンプルです。 ブロックから10個の円柱を抜き出し、また元 にあった穴に戻します。単純な活動ですが、子 どもたちは円柱と穴を何度も見比べながら深く 集中した様子で取り組んでいます。実はこの活 動を通して子どもたちは、高い低い・太い細い ・大きい小さい・深い浅い、などの寸法を見分 ける目を磨いているのです。 (M.I)



スポンジを使う

(日常生活の練習)



爽やかなお天気の日には、テラスで水のお仕事がしたいという子どもたちがたくさんいます。今、黄色バッチで流行っているのは「スポンジを使う」というお仕事です。濡れたスポンジを使ってテーブルを拭き、綺麗にするお仕事です。練習のため、色水などでテーブルを意図的に汚し、水につけて絞ったスポンジで汚れを拭き取ります。その後乾いた小布でくるくるとテーブルを磨き、仕上げます。

使った洗い桶やバケツなどの道具を拭いて片付け、 次のお友だちが使うためにスポンジや小布を新し く取り替えてセットします。このお仕事ではスポ ンジの使い方を知るというだけでなく、活動の順 序を覚えたり、元の通りに片づけることの気持ち 良さを、楽しみながら経験していきます。





小さい篭3

(数教育)



小さい篭1・2で環境にある様々な「物の名前」を文字と合わせた子どもたちは、次に赤い紙の沢山入った小さい篭3に興味を持ちます。数人のグループで絨毯を囲み、1人ずつ順番に篭から紙を取り、こっそり見ます。その後その紙に書いてある「歩く」や「寝る」「泣く」などを「だまって」行います。他の子どもた

ちは、そのジェスチャーを見て、紙に何が書かれていたかを当てます。子どもたちは、実際に寝たり、泣き真似をしたり実に見事に行動するので、見ているこちらも楽しくなります。最後に子どもは皆に向かって何が書かれていたかを読み上げ、文字を見せます。これにより子どもたちは、言葉には物の名前だけでなく「動作」を表すものもある、という事を知ります。 (KS)



お仕事

触覚板

(感覚教育)

子ども達は何でもよく触って確かめるのが大好きです。自分が知らないものに 出会うと、それがどんなものなのか、自分の感覚を使って探っているのですね。 そんな子ども達の触感覚を刺激する楽しいお仕事が「触覚板」です。4種類の板 はそれぞれに特徴があります。1枚目はすべすべした触り心地の板の半分に、ザ



ラザラした紙が貼られています。2枚目の 板はザラザラ、すべすべ、ザラザラ…と交互 に違っています。そして3、4枚目は5種類 の粗さの紙が貼られていて一方は右から左へ 段々ザラザラに、一方は段々すべすべになっ ています。これらの板を指先で触り、違いを 楽しんでいるうちに自然と子ども達の触感覚 は洗練されていくのです。 (MI)



着衣枠

(日常生活の練習)



様々な指先の活動をして「手」が洗練された子ども達にとって、自分の身の周 りの事は何でも自分でしたくなります。「蝶結び」は、プレゼントや作品を持ち帰 る時使うので、子ども達はそれをする事に憧れをもっています。そこで今、黄色 バッチさんに人気があるのが「着衣枠」です。これは、30 cm四方の木枠に中央で 合わせる2枚の布が左右についていて、それぞれの布についている色違いのリボ

ンを使い、蝶結びの練習をします。蝶結びが単 独で練習できるため、子ども達は他の事に気を とらわれず集中して行い、何度か繰り返すうち に、気がつくと出来るようになっています。着 衣枠は、他にスナップやファスナー、靴のひも などが有ります。





による乗法

(数教育)



ビーズとカード 子ども達は、これまでビーズとカードを使って4桁の大きい数作りをしたり、 それらを合わせるたし算のお仕事などをしてきました。かけ算では、同じ数を何 回も集めて大きい数を作ることをビーズとカードを使って経験します。例えば、 3234×3= などの問題を、3234のビーズを3人の子どもが持ち寄り、

> 合わせて答えを出すのです。その過程で繰り上が りがある場合でも、'銀行屋さんで両替する'(例 えば、1のビーズ10個と10のビーズ1個を交 換する)などして処理していきます。参観などで 、青バッチさんだけでこうした銀行あそびの活動 をしている様子をご覧になられたかもしれません。



(Y.K)

タオルを絞る

(日常生活の練習)

暑い季節には水を使ったお仕事が大人気になります。これまでに、水を使ったお仕事でスポンジの使い方を知り、また水差しの扱いが上手になった赤バッチのお友達は「タオルを絞る」というお仕事に取り組んでいます。水を注いだ洗い桶におしぼりサイズのタオルを浸し、畳みながら両手に乗せてギューっと雑巾絞り



をします。小さなお子さんにとって、絞る手の動きが少し難しいようですが、教師の手の形や動きをじっと見つめて、同じように行おうとするこの時期の秩序感が、自然と上達へと導きます。出来たおしぼりをトレーに乗せて「はいどうぞ。」とお友達や先生にお届けして手や顔を拭いてもらうと満足そうです。人に喜んでもらうことの嬉しさやおもてなしの心も育んでいくお仕事なのですね。



(M.I)

温覚板

(感覚教育)



子ども達は、「触る」ことが大好きです。赤ちゃんの時から様々な物を触ってきたので、頭の中には、色々な物の感触が沢山インプットされています。モンテッソーリ教育にはそれらの「触感覚」を識別するお仕事がいくつかありますが、温感板は温度差を識別しながら温度感覚を養います。箱の中に、それぞれ板状の

2枚の「木」「ガラス」「石」「フェルト」「コルク」 「金属」が入っています。目を閉じて、ばらばら にしたそれぞれの板を4本指で触り、同じもの探 しをします。最初は金属と石の冷たさが同じよう に感じたりして戸惑う子ども達も、何度か繰り返 すうちに上手に識別出来るようになります。その 後その物の名前を知り、身の回りにあるものを楽 しく識別するようになります。 (K.S)



困難な綴字法の紹介

(言語教育)



以前「移動五十音」のお仕事をご紹介しました。子ども達は、50 音が書かれた 小さなプラ板を使って絨毯の上に言葉を書きます。例えば、野菜の名前「にんじん」や「とまと」などの言葉を並べていきます。そのうち「きゅうり」と書こう として、子どもは少し戸惑います。「きうり」とか、「きゆうり」と書いたりする

のです。ここで「困難な綴字法の紹介」という活動を行います。子どもにとって難しい「きゃきゅ、きょ」などの拗音を大きい「き」と小さい「ゃ」のカードをだんだん近づけながら同時に発音することで、その語の成り立ちを分かりやすく示します。子ども達は楽しみながら拗音や拗長音を含んだ言葉を体得していくのです。

(V K)





仕 事

つむぼうばこ 紡錘棒箱

(数教育)



モンテッソーリの数教育の最初の目的は、【数と量の一致】です。2とはどれ位 の量、4とはどれ位の量だということを、複数の教具を通じて体感することから 始まります。そのひとつが紡錘棒箱です。木製の2つの箱の一方には、0から4 の数字、もう一方には5から9の数が書かれていてそれぞれに仕切りがついてい ます。この箱に木製の棒を数えながら入れます。

1の部屋には1本の棒、2の部屋には2本の棒と いう手順で9まで棒を入れると、45本全部の棒 がきれいに箱に収まります。その棒の量で数の大 きさを体感しているのです。またこの活動によっ て〇の部屋には何もない、何もないのが〇なんだ と発見したり、数字は0から9までしかないこと を知るきかっけにもなっています。 (M. I)



(数教育)



子ども達は大きな数が大好きです。紙に大きな桁の数字を書いて満足そうにす お仕事です。子ども達は一、十、百、千それぞれの桁の担当になり、ビーズやカ ードを使って四桁の数を作るのです。何気なく行っていますが、実はこのビーズ は「量」を体感し「具体性」を学び、カードは「数字」を知り「抽象性」を学ん

> でいるのです。自分達の担当する桁は、ロー テーションで交代し、それぞれの子ども達が、 まんべんなく四桁を体験します。自分達で作 った四桁の数字を最後に「自分達自身」で読 み上げる時の表情は、楽しさの中にも少しだ けお兄さんお姉さんに近づけたような誇らし い感じがします。





構成三角形3 三角形の箱

(感覚教育)



以前ご紹介した幾何箪笥(きかたんす)のお仕事で、子ども達は様々な平面図 形に触れ、その名称を言ったり、お部屋の中にそうした形のものを探す活動をし てきました。この構成三角形のお仕事では、いろいろな種類の三角形を合わせる

ことで、四角形や三角形、六角形などのいろいろ な図形ができることを経験します。この三角形の 箱では、正三角形が、2枚の直角不等辺三角形で できること、3枚の鈍角二等辺三角形でできるこ と、4枚の正三角形を合わせてできることなどを 見つけます。三角形の色の違いや図形に引かれた 黒線を合わせるという約束を伝えることにより、 子ども達が自ら発見できるように準備されていま





仕 事

布合わせ

(感覚教育)



小さい子ども達は、何にでも触って確かめるのが大好きです。触感覚を発達、 洗練させるこの時期に子ども達に紹介する活動が、以前ご紹介した触覚板や、こ の「布合わせ」というお仕事です。1の箱には、色、柄、織り方の異なる同じ大 きさの布が対(対の物は同じ色)で準備されています。ベルベットやウール、木 綿、絹、ナイロン等です。教師がはじめに布の触り方を示した後、子ども達は目

隠しなどをして手で布を触り、同じ種類の対の布 を探し当てるのです。色が同じかどうかで合って いたか確かめることができます。2の箱には全て 白い色で素材の異なる対の布が入っており難易度 が上がります。目隠しをすることで、視覚を使わ ず触覚のみに神経を集中することができるのです。



封筒パズル

(言語教育)



子ども達は、文字を取得すると「書いてみたい」と言う気持ちでいっぱいにな ります。色々な紙に覚えたばかりの言葉を次々に書くのですが、その際、話し言 葉と書き言葉の違いに気づかず書いてしまうことがよくあります。例えば「すも う」の「う」は書き言葉では「う」ですが、読みは「お」です。同じように「と けい」の「い」の読みは「え」、「おじいさん」の「い」は読まずにのばします。

(Y, K)

このように身近にある沢山の言葉を「カード」 にし、封筒に入れたものがこのお仕事です。子 ども達は書いてある文字を読み上げながら、そ れぞれ読み方別のグループに分けていきます。 自分の手元にあるカードの「違う部分」を「お ねーーさん」など、強調しながら読み上げ、楽 しそうにお仕事しています。 (K. S)



巻き数字

(数教育)



長い長い1000の鎖を数え終わった子ども達が、その展開として取り組んで いるのが巻き数字です。1から1000までを声に出して数えることができたの 1000 の鎖の展開で、次はその数字を書いてみようというお仕事です。まずは牛乳パックの空箱で、 長い紙を巻きながら収納できる箱を作ります。10個数字を書ける縦長の紙に1

> から順に数字を書き、何枚もつなげて1000ま で書いては巻き、書いては巻き…数が大きくなる につれて巻きの太さがどんどん太くなっていく様 子が、達成感やヤル気にもつながっているようで す。「129の次って何だっけ?」「410の次は 420?」と何度もつまづきながら1000まで たどり着いた頃には、十進法や連続数の仕組みが 自然と身についているようです。 (M, I)





お 仕 事

物と名前

(言語教育)



様々な文字を「書く」活動をしてきた子ども達にとって、次に気になるのが大人や年長児の書く言葉を「読む」ことです。そのような子ども達にピッタリのお仕事が「物と名前」です。かごの中に小さな品物が6~8個入っていて、絨毯にそれらを並べ、そのひとつひとつの名前を細い短冊状の紙に書いて、物の下に置きます。はじめのうちは「しろくま」「きりん」「うま」など清音の模型を入れて

おきますが、慣れてきたら中身を「ぼたん」「かがみ」「えんぴつ」などの濁音、半濁音がまざったものに変えます。子ども達は書いてもらった紙を真剣に何度も読んでいます。最初は一文字ずつ拾い読みしていた子ども達も、知らないうちにスラスラと読めるようになり、物と名前が一致します。

(K. S)

色つき円柱

(感覚教育)



モンテッソーリ教育の感覚教具は、子どもの感覚器官をより良く発達させるのを手助けしています。様々な角度から五感を刺激することで、小さな『違い』に気づける感性が養われていくのです。「色つき円柱」も、視覚を刺激する感覚教具の1つで、特に大きさ(寸法)に焦点をあてています。4つの箱にはそれぞれ、異なる大きさの円柱が10個ずつ入っています。黄色い箱の円柱の高さは少しず

つ低くなり、太さも少しずつ細くなります。その逆に変化するのが緑色の箱、残りの赤と青の箱はそれぞれ、太さのみ・高さのみが変化しています。子ども達はこれらの10個の円柱を並べたり、積み上げたりしながらその違いに気づき、変化を楽しみながら、自らの感覚を研ぎ澄ましていくのです。 (M. |)



切る

(日常生活の練習)



「切る」というお仕事は年齢を問わず子ども達の大好きなお仕事です。はさみを持ち、1㎝幅位の1回切りをすることから、青バッチにもなると複雑な図案、例えば実物大の昆虫サイズのようなものまで、いつのまにか切れるようになっています。棚に様々な段階の子に合うような図案を並べておくと、子ども達はまず

自分で選びます。少し難しいものを選んでしまいうまくいかないことがあっても、またそれを選び修行のように毎日繰返し自分を訓練しています。作業に集中している様子を見ていると、手先を洗練させたいという子どもの内的欲求がよく理解できます。切れるようになった時、自分を認め、深い満足感を味わった少し大人びた子どもの一皮剥けた姿を見ることができます。



(K. K)



お 仕 事

音感ベル

(感覚教育)



お部屋の前を通った時に、時々「リーン」という心地よい金属音を耳にすることがあります。音の源は「音感ベル」という感覚教具です。可愛いキノコ型の形ですが、音階は正確で、低い「ド」から高い「ド」までが一音ずつ並んでいます。見た目は同じですから初めての子どもにとってはその音を聞き分けるのは難しい

ことです。基本の「ド」の音を一つだけ取り出して、打棒という玉のついた棒でたたいた後、持ち上げて音が消えるまでじーっと聞いています。慣れてきたら、音の数を増やして、同じ音探しや、音を完成させたりしていき、子どもによっては綺麗なメロディーを奏でたりします。 (K. S)



行動あそび

(言語教育)



黄色バッチになると、読み方も一段と上手になります。「行動あそび」は、意味 を理解して文を読めるようになった子ども達にとって、とても楽しいお仕事です。 じゅうたんの周りに数人で座り、3箱あるうちのひと箱を開け、中にあるカー

ドを1人1枚ずつ取ります。カードを黙読し、覚えて伏せます。次に、覚えた文

を順番にジェスチャーで表現し、周りのお友達に当ててもらいます。1の箱には動詞が1つの文『みみを ひっぱる』、2の箱には『いすをもって はこぶ』など2つの文が、3の箱には『おんかんべるを たたいて もって きく』など3つの動詞の文になり徐々に難しくなりますが、文を読み・理解し・身体を使って表現するという活動は、子ども達にとって実に魅力的なのです。 (M. 1)



アジアの地図

(文化教育)



大陸別に色分けされた世界地図のパズルや、地図作りのお仕事を終えた子どもが次に取り組むのが、アジアの国別のはめ込みパズルと地図づくりです。モンテッソーリの文化の教具にはアジアだけでなく、全世界の国のパズルも準備されています。大陸別の大まかな世界地図と違い、アジアの地図づくりは約50ヶ国の

国名とその位置を確かめ、色を塗りながら国名を貼りつけていく作業で、注意深さや根気のいる大仕事です。時には世界のことについて書かれた図鑑や本をめくり、楽しみながら自分のペースで活動に取り組んでいます。この後の国旗ぬりえの仕事と共に、青バッチになったらできる年下の子の憧れのお仕事です。



(Y, K)

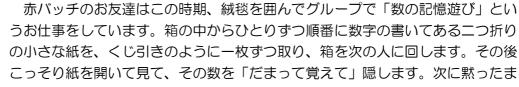
個別活動 ピンテッソーリ活動



お 仕 事

数の記憶遊び

(数教育)





ま別の箱の中から、その数の石をとり、絨毯に並べ、皆に紙に書いてあった数と、自分の取った石の数が合っていることを発表します。一度覚えたはずの数なのに、石を取り出しているうちに忘れてしまったり、間違えて数えてしまったり、子ども達はドキドキしながらも何度か行ううちにすっかり「記憶の達人」になります。この「記憶」が後に数の「暗算」につながります。 (K. S)



重量板

(感覚教育)

感覚教具の一つである「重量板」は触覚、中でも重量感覚の発達や洗練を助ける教具です。3つの木製の箱の中にそれぞれ重さの異なる長方形の板が7枚ずつ入っています。1枚当り24gのくるみ、18gの藤、12gのもみの3種類、板の色も異なります。この6gの差の板を子どもたちは目隠しをして掌の上で比べ、



「重い」「中くらい」「軽い」に分類するのです。 初めは、「重い」「軽い」の2種類だけを使います。教師が子どもの右と左の掌に重いものと軽いものを乗せて目をつむって十分比較させます。 そして「重い」「軽い」という言葉を与えます。 その後板を混ぜて分類していきます。板の色の違いで正誤が確認できるので、子どもだけでも活動できるのです。



編む

(日常生活の練習)



これまで日常生活の練習の様々な活動を行うことで、自分の身体をすっかり思い通りに動かせるようになった青バッチさん。特に指先の動きは、目を見張るほど洗練されてきています。緑バッチの頃から始めた縫いさしの活動は、黄色バッチになるとフェルト布に上手にボタンをつけられるまでになります。冬になって最近の青バッチさんは、毛糸を使った編み物に夢中になっています。指を上手に

使った「指編み」が出来るようになると、「かぎ編み」に挑戦しています。かぎ針を扱うためには非常に細やかな指先の動きが必要なので、最初はなかなか上手くできませんが、粘り強い精神力や集中力が養われている青バッチさんは、繰り返すほどにみるみる上達していきます。

(M. I)



個別活動 ピンテッソーリ活動



お 仕 事

赤い棒

(感覚教育)



感覚教具の中で早い段階に子ども達に紹介する教具に「赤い棒」があります。「桃色の塔」は大小を、「茶色の階段」は太い細い、の理解を助ける教具であるのに対し、「赤い棒」は長短の理解を助けます。木製の赤い10本の棒で、最も短いのは10m、漸次10mずつ1mまで増加します。初めは絨毯の上に棒をバラバラに

並べ、目で見て、棒を1本ずつ計るように手でな ぞり、長いものから短い順に階段のように並べま す。「長い、短い」という言葉や「一番長い」「こ ちらの方が長い」など最上級や比較級の言葉も活動の中で使います。繰り返し活動し、段階が進む と様々な並べ方も楽しみ、視覚と触覚で長短の理解を更に深めていきます。 (Y.K)



数の記憶遊び2

(数教育)



先月紹介した「数の記憶遊び」には、続きがあります。何度も「綺麗な石」を使って、数と量を一致したり、書かれているカードの数をあっという間に記憶した子ども達が、次に夢中になるのは、「助数詞」です。前回と同様何人かのグループで絨毯を囲み、箱の中のカードを取り、書いてある数字をこっそり見ます。前

回と違うのは石の代わりにその数の鉛筆や紙や 教具を持って集まります。子ども達はそれぞれ 持ってきた物を指さしながら、「私のカードは 5です。一緒に数えてね。いっぽん、にほん、 ・・・ごほん」などと声を出して数えます。 色々な物を数えていくうちに「物」にはそれ ぞれの数え方があることを知ります。 (K.S)



はたおり

(日常生活の練習)



毎年この頃になると毛糸を使った活動が盛んになりますが、「はたおり」もその 一つです。女の子が好んでする活動かと思いきや、男の子も夢中になって取り組 んでいる様子が印象的です。織り方はいたってシンプルで、縦に張った糸に右か ら左、左から右へと横糸を通し、くしで整えます。横糸が巻かれた道具、杼(ひ)

を器用に上下に動かすのも徐々に素早く行えるようになり、熟練していきます。途中で何度も糸の色を変えながら織った作品は色鮮やかに個性的で、子どもたちの芸術的な感性に驚かされます。織り終わった後は敷物にしたり、さらにパーツを組み合わせてポシェットにしたりと、子ども達の創作の世界は無限に広がっていきます。 (M.1)

